

陽のあたる場所 (A Place in the Sun)

観賞日 2022年6月13日 上映時間 122分

【概要】

制作 1951年 アメリカ
監督 ジョージ・スティーヴンス
原作 セオドア・ドライサー『アメリカの悲劇』
脚本 マイケル・ウィルソン、ハリー・ブラウン
音楽 フランツ・ワックスマン
撮影 ウィリアム・C・メイラー
出演 モンゴメリー・クリフト (ジョージ・イーストマン)
エリザベス・テイラー (アンジェラ・ヴィッカーズ)
シェリー・ウィンタース (アリス・トリップ)



【あらすじ】

伯父を訪ねて地方からやってきた青年ジョージ。伯父の会社に就職し、職場の同僚アリスと恋仲になる。ある日、叔父一族のパーティーに招かれ美しい令嬢アンジェラと出逢い心を奪われる。アンジェラも今まで周りにいなかったタイプのジョージに魅かれる。アンジェラの眩いばかりの美しさと用意された出世の階段。「陽のあたる場所」に吸い寄せられるジョージは次第にアリスが疎ましくなる。そんな折、アリスから妊娠を告げられ結婚を迫られる。困惑するジョージに芽生える殺意の影。湖でボートに乗ったジョージとアリスに起きたアクシデント。ジョージはアリスを見捨てて逃げ去ってしまう。やがて開かれる陪審員裁判。決定的に悪い状況証拠の中で死刑を宣告されるジョージ。そんなジョージの最期の日に訪れたアンジェラが語ったことは・・・。

アメリカン・ドリームの光と影。死を目前にしたジョージが気づいた事件の真相は・・・。

【解説】

■ポイント

●様々なジャンルの要素を持った映画

ラブ・ストーリー：野心を持った地方出身の青年と都会の上流社会の美女との愛

正反対の世界で育った者の魅かれあう心情

サスペンス：二人の女の間で揺れ動く男の心理。男のエゴと女のエゴ。

芽生える殺意とちらつく野望。張り巡らされた伏線。

法廷劇：ハリウッドが得意とする緊迫の陪審員裁判劇

暗い結末の中でラストの台詞が一筋の光明

松本清張の短編小説にありそうな状況設定であるが欧米では神の存在が入る

●受賞 (第24回アカデミー賞)

9部門にノミネートされ6部門で受賞

監督賞、撮影賞、脚色賞、作曲賞、衣裳デザイン賞、編集賞

■見どころ

●エリザベス・テイラー19歳

世界一の美女といわれたテイラーが眩いまでに輝いていた時代の作品

●ジョージに殺意と犯意はあったのか？

